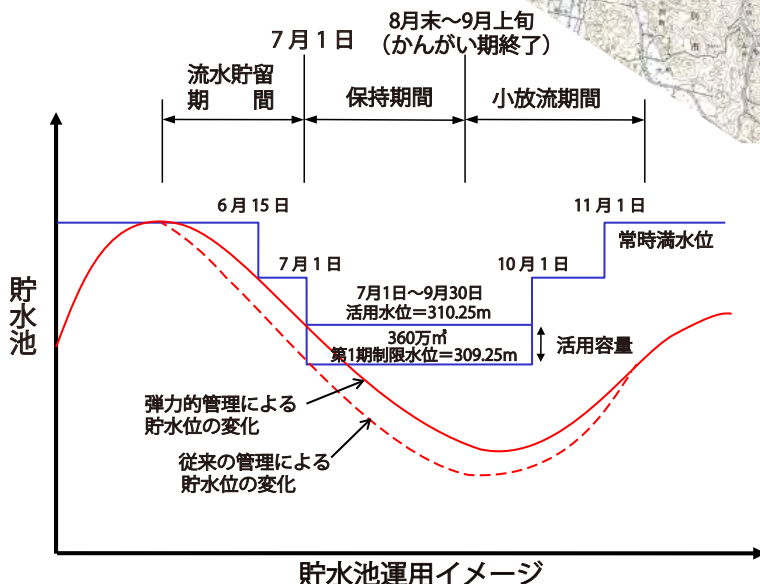


## 岩尾内ダムの水環境改善（弾力的管理試験）

岩尾内ダムが完成した昭和46年以降、岩尾内ダム下流の天塩川では、渇水となった場合に下士別頭首工でかんがい用水を取水後に一部減水区間が発生します。また、かんがい用水の取水が終了した後は、ダム直下流の区間が無水・減水区間となり、河川水の滞留や河川景観の悪化等が課題となっており、地元自治体からも流れの改善への要望が出されていました。



平成18年度に小放流設備を設置し、治水容量のうち最大360万m<sup>3</sup>の水を利用して、ダム下流約3kmの無水区間への放流および、頭首工下流の減水区間への補給を「弾力的管理試験」として平成19年度から始め、河川環境の改善に努めています。



## 放流概要

放流日：7月1日～11月30日の期間で実施

※水力発電放流中は、水力発電放流に含まれる

放流量：7月1日～8月29日 約0.2m<sup>3</sup>/s（下士別頭首工魚道必要流量）

8月30日～11月30日 約0.5m<sup>3</sup>/s

（ダム直下無水区間、減水区間の解消）



## 弾力的管理試験とは？

洪水調整に支障を及ぼさない範囲で、洪水調整容量の一部に流水を貯留し、これを適切に放流することにより、ダム下流の河川環境の保全、改善を図るものです。

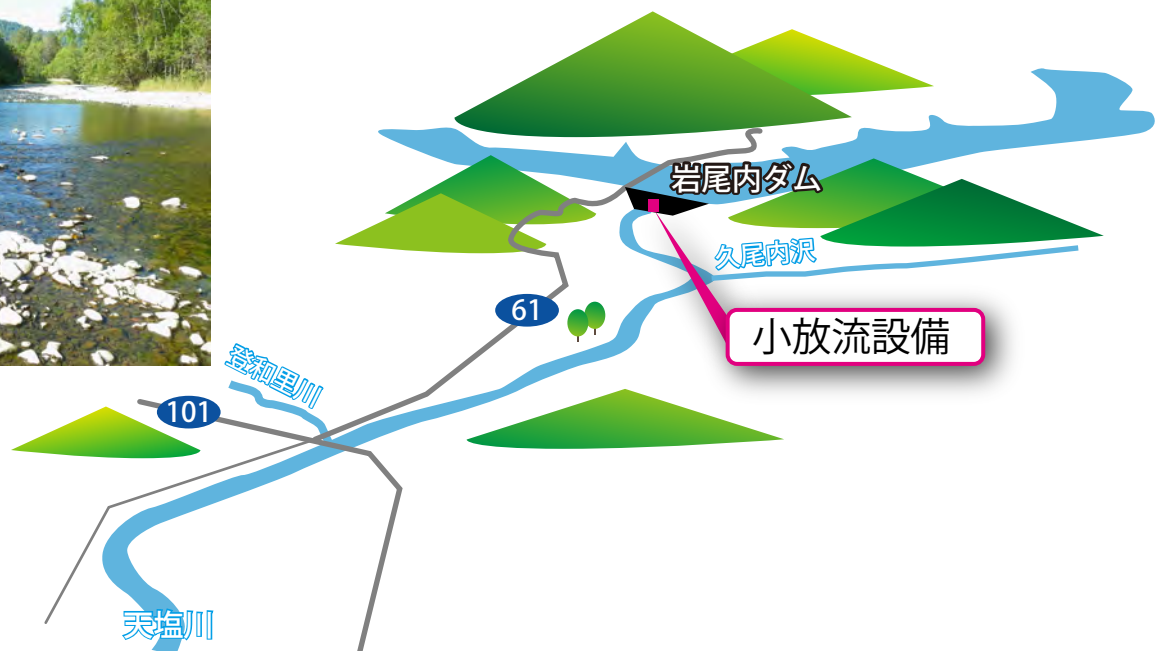
### 川にほとんど水がない状況

改善前



水面が広がり、せせらぎが回復

改善後



効果